

**PAT-NO: JP02000126075A**

**DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2000126075 A**

**TITLE: POCKET BODY WARMER FOR WET TISSUE**

**PUBN-DATE: May 9, 2000**

**INVENTOR-INFORMATION:**

<b>NAME</b>	<b>COUNTRY</b>
<b>NIKI, YOSHIFUMI</b>	<b>N/A</b>
<b>SAGARA, SANAE</b>	<b>N/A</b>
<b>KANAI, TAEKO</b>	<b>N/A</b>

**ASSIGNEE-INFORMATION:**

<b>NAME</b>	<b>COUNTRY</b>
<b>KAO CORP</b>	<b>N/A</b>

**APPL-NO: JP10301324**

**APPL-DATE: October 22, 1998**

**INT-CL (IPC): A47K010/42**

**ABSTRACT:**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To easily warm a proper quantity of wet tissue to a proper temperature by using a heating element using the oxidation heat of iron powder as heating source, and providing a takeout part for wet tissue.

**SOLUTION:** A pocket body warmer 1 has a flat form, and its takeout part 10 is

**formed of an opening provided in about the center. The oxidation heat of iron powder is applied to the heating element, and at least one surface side is formed of an oxygen permeable sheet. The takeout part 10 has a rectangular form having both semicircular ends, and the size is not particularly limited as long as it allows the smooth taking out of wet tissue. The thickness is preferably set to 1 mm-5 mm from the point of basically using it in a case. The pocket body warmer 1 is placed on the wet tissues housed in a wet tissue case comprising a case body for housing a plurality of laminated wet tissues, which has an opening part on the upper surface.**

**COPYRIGHT: (C)2000,JPO**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-126075

(P2000-126075A)

(43) 公開日 平成12年5月9日 (2000.5.9)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

識別記号

F I

テマコード (参考)

A 4 7 K 10/42

A 4 7 K 10/42

A

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平10-301324

(22) 出願日 平成10年10月22日 (1998. 10. 22)

(71) 出願人 000000918

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

(72) 発明者 仁木 佳文

栃木県芳賀郡市貝町赤羽2606 花王株式会社  
社研究所内

(72) 発明者 相良 早苗

栃木県芳賀郡市貝町赤羽2606 花王株式会社  
社研究所内

(72) 発明者 金井 妙子

栃木県芳賀郡市貝町赤羽2606 花王株式会社  
社研究所内

(74) 代理人 100076532

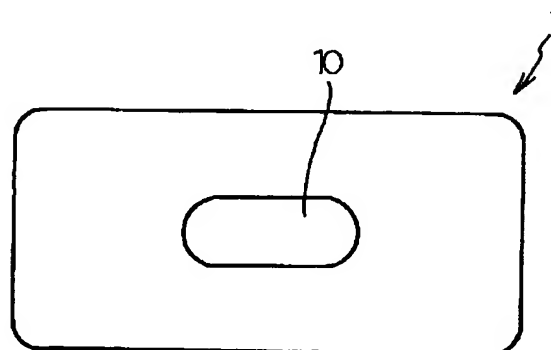
弁理士 羽島 修 (外1名)

(54) 【発明の名称】 ウェットティッシュ用カイロ

(57) 【要約】

【課題】 コードが邪魔になったり、含浸液が蒸発してしまうことがなく、手軽に、適量のウェットティッシュを適温に加温できるウェットティッシュ用カイロを提供すること。

【解決手段】 鉄粉の酸化熱を応用した発熱体 (図示せず) を発熱源とし、ウェットティッシュの取り出し部10を有し、平板状で、取り出し部10が、そのほぼ中央部に設けられた開口により形成されているウェットティッシュ用カイロ1。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 鉄粉の酸化熱を応用した発熱体を発熱源とし、ウェットティッシュの取り出し部を有するウェットティッシュ用カイロ。

【請求項2】 上面に開口部を有し、複数枚積層されたウェットティッシュを収納する容器本体を具備するウェットティッシュ用容器に収納されたウェットティッシュの上部に載置される請求項1記載のウェットティッシュ用カイロ。

【請求項3】 平板状で、上記取り出し部が、ほぼ中央部に設けられた開口により形成されている請求項1記載のウェットティッシュ用カイロ。

【請求項4】 上記ウェットティッシュ用容器は、上記容器本体の上面側に装着される蓋体を有する請求項1記載のウェットティッシュ用カイロ。

【請求項5】 上記ウェットティッシュ用容器は、ウェットティッシュ用カイロ上に載置される落とし蓋を有する請求項1記載のウェットティッシュ用カイロ。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、手軽にウェットティッシュを適温に加温できるウェットティッシュ用カイロに関する。

【0002】

【従来の技術及び発明の解決しようとする課題】従来より、ウェットティッシュを適温に暖めるために、ウェットティッシュ用容器に装着して用いるウェットティッシュ用ヒーター類が種々提案されている。しかし、従来のヒーター類では、1)コードを有していたためこのコードが邪魔になる、2)容器全体を加熱するため、全体的に加熱しすぎてしまいウェットティッシュの含浸液が蒸発する、等の問題があった。

【0003】従って、本発明の目的は、コードが邪魔になったり、含浸液が蒸発してしまうことがなく、手軽に、適量のウェットティッシュを適温に加温できるウェットティッシュ用カイロを提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は、鉄粉の酸化熱を応用した発熱体を発熱源とし、ウェットティッシュの取り出し部を有するウェットティッシュ用カイロを提供することにより上記目的を達成したものである。

【0005】

【発明の実施の形態】図1及び2に示す実施形態のウェットティッシュ用カイロ1（以下、「カイロ1」と略す）は、鉄粉の酸化熱を応用した発熱体（図示せず）を発熱源とし、ウェットティッシュの取り出し部10を有する。

【0006】更に詳述すると、本実施形態のカイロ1は、平板状で、取り出し部10が、そのほぼ中央部に設けられた開口により形成されている。また、上記発熱体

は、鉄粉の酸化熱を応用した公知の使い捨てカイロと同様に構成されており、公知の使い捨てカイロと同様に、その少なくとも一面側が酸素透過性シートにより形成されている（図示せず）。

【0007】本実施形態における取り出し部10は、図1に示すように両端部が半円形状の長方形形状であり、その大きさは、ウェットティッシュをスムーズに取り出せる大きさであれば特に制限されない。厚みは、容器内へ入れて使用することを基本とする点から、1mm～30mmが好ましく、特に1mm～5mmが望ましい。発熱温度は、シートを加熱するのに必要な熱量の点から、好ましくは45℃以上、更に好ましくは50℃以上であり、安全性、シートの不必要な加熱をさける点から、好ましくは60℃以下、更に好ましくは55℃未満である。発熱体の重量は、積層シート最上層とカイロとがより隣接する目的の点から、好ましくは10g以上、更に好ましくは20g以上であり、持ち運びの点から、好ましくは50g以下、更に好ましくは50g以下である。

【0008】カイロ1は、図2に示すように、上面25に開口部25aを有し、複数枚積層されたウェットティッシュ3を収納する容器本体21を具備するウェットティッシュ用容器2に収納されたウェットティッシュ3の上部に載置される。この際、カイロ1はウェットティッシュに直接又は間接に載置されるが、本形態においては、ウェットティッシュは、上面に開口41を有する袋体4に収納されており、カイロ1は、ウェットティッシュ3の上部に該袋体4を介して間接に載置されている。また、カイロ1の取り出し部10の形状は、開口41の形状とほぼ同じである。ウェットティッシュ用容器2は、図2に示すように、容器本体21の上面25側に装着される蓋体22を有する。ウェットティッシュ用容器2は、カイロ1上に載置される落とし蓋23を有する。落とし蓋23を設けるのは、カイロ交換の簡便性、シート引き出し性制御、カイロとシートとの密着性の点で有用である。落とし蓋の重量は、カイロとシートとの密着性の点から、好ましくは10g以上、更に好ましくは20g以上であり、持ち運びの点から、好ましくは50g以下、更に好ましくは50g以下である。また、本形態においては、落とし蓋23のカイロ1と当接する面は剥離自在となるように処理されており、カイロ1の上面には接着剤が塗布されており、落とし蓋23は、カイロ1と剥離自在に接着されている。

【0009】ウェットティッシュ用容器2において、上面25は、カイロ1を載置できるように、容器の壁部材24の上端縁24aよりも下方に位置している。蓋体22には、その中央部に、更にウェットティッシュ取り出し時開閉用の開閉自在な蓋部22aが設けられている。

【0010】本実施形態のカイロは、上述の如く構成されているので、コードが邪魔になることなく手軽にウェットティッシュを適温に加温できる。また、容器全体を

加温するのではなく、容器の上面側のみを加温できるので、含浸液が蒸発してしまうことがなく、適量（加温する間に使用する程度の量）のウェットティッシュを適温に加温できる。

【0011】取り出し部の位置は、ウェットティッシュが取り出せればカイロの中央部でなくても良い。取り出し部の形状も、特に制限されず、例えば、図3に示すように取り出し部10の一边側に切り欠き部11を設けたり、図4に示すように一边に切り欠き部12を有する2つのカイロ部材1'でカイロ1を構成し、取り出し部10が両者の切り欠き部12で形成される形態としても良い。

【0012】

【発明の効果】本発明のウェットティッシュ用カイロは、コードが邪魔になったり、含浸液が蒸発してしまうことがなく、手軽に、適量のウェットティッシュを適温に加温できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、本発明のウェットティッシュ用カイロ

の1形態を示す平面図である。

【図2】図2は、図1に示すウェットティッシュ用カイロの使用態様図である。

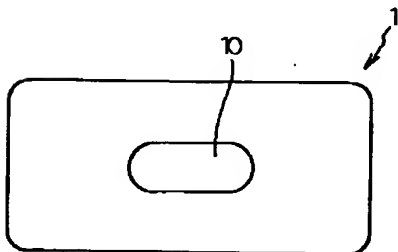
【図3】図3は、本発明のウェットティッシュ用カイロの他の実施形態を示す平面図である。

【図4】図4は、本発明のウェットティッシュ用カイロの他の実施形態を示す平面図である。

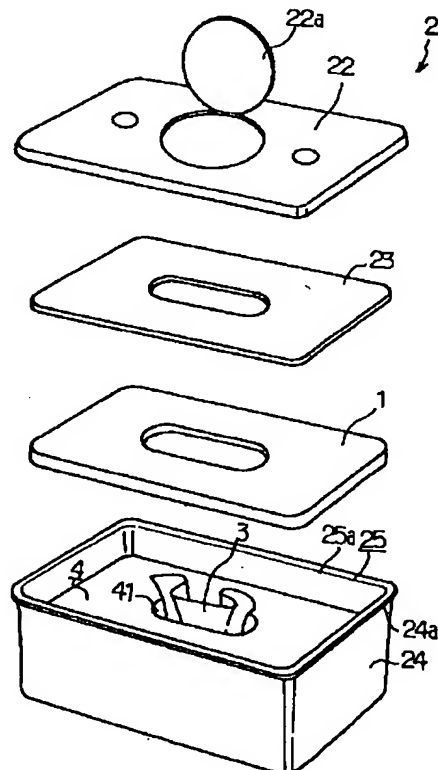
【符号の説明】

- 1 ウェットティッシュ用カイロ
- 10 取り出し部
- 2 ウェットティッシュ用容器
- 21 容器本体
- 22 蓋体
- 23 落とし蓋
- 24 壁部材
- 24a 上端縁
- 25 上面
- 3 ウェットティッシュ

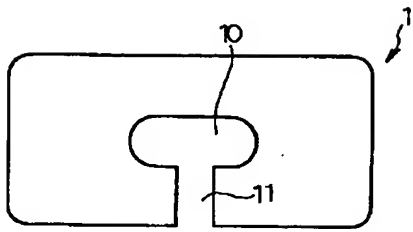
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

